



今月のみさとし/最も努力して何一つ要求せざる神は、実に最高道徳の実行者である。(『ご聖訓』第六巻85頁)

令和4年 新年初会

# 新春を新たな心でスタート、各道場で新年初会を催行

令和4年を迎え、1月5日、全国の直轄道場で新年初会が開催され、参加者は新春を祝い、新たな目標に向かってより一層努力することを誓い合った。



岡野理事長による万歳三唱で新年の躍進を祈念(本部道場)

本部道場では、まず本部役員が御神前に整列し、年頭の挨拶を会場と交わした。講話では、岡野英夫理事長が「み教えの尊さや法の力を信じ、コロナ禍を不安がらずに世のため、人のために活躍していこう」と述べ、最後に岡野理事長の発声で万歳を三唱した。



新年の挨拶で倉田理事が精進を呼びかけた(御霊地道場)

雲のない晴れの日、114名の会員が御霊地道場に集い、感染予防をしながらも互いに新年の挨拶を交わす笑顔が目立った。出講の倉田正治理事は「依然、社会は非常重大な時期、その時こそ御五法に触れさせていただき金剛さまのみ教えを心の中心に置いてほしい」と呼びかけた。



新年を喜び声高らかに万歳三唱(関西道場)

関西道場では120名が参集。役員を代表し柴田正美関西道場長が「新制関西圏域となって2年が経ち、益々飛躍するために一丸となって学びを深め広げてまいります」と述べた。コロナ禍で会員が集う機会が少ない中で、参集できたことの有り難さを実感した初会となった。



服部常任理事発声のもと躍進の誓いを込め万歳三唱(中部道場)

中部道場では、約80名が参加した。まず新年の挨拶があった後、服部宇之輔常任理事の講話では、み教えを学んで心の健康を保ち、新型コロナウイルスに感染しないような生活を心がけていくことの大切さを述べた。最後に万歳三唱が行われた。



新年を寿ぎ心新たに誓う万歳三唱(湘南道場)

湘南道場では、昨年10月末に会員の真心によって新調された畳が清々しく香る中、本部より福井恒明理事が出講、神静圏域の支部代表の約50名が集った。講話に立った福井理事は、家庭はもちろん、縁ある総ての人へ向けて感謝の心でみ教えを実践する大切さを述べた。



御神前にて新年のご挨拶(札幌道場)

札幌道場では、厳しい寒さの中、新年を迎えた。車康平理事は講話の中で、コロナ禍の中、会員としてどうあるべきかを、今年の活動方針を踏まえて述べた。最後に森下勇理事参与の発声のもと万歳三唱を行い、新年の誓いを新たにした。

令和4年 元旦祭

## 新しい年を迎えて

晴天に恵まれ、令和4年の元旦を迎えた御霊地には、緊急事態宣言の解除に伴い、全国から多数の会員が初詣に訪れた。元旦祭は午前11時から太神社殿前に行われ、国歌斉唱、修祓、献饌と続き、岡野英夫理事長が祝詞を奏上した後、岡野理事長、岡野茂樹御本家当主、渡辺孝

彦顧問、関僚子常任理事が玉串を奉奠した。拝礼行事の後、年頭挨拶に立った岡野理事長は、本年は変革のエネルギーがさらに強まる年であり、今年を実りあるものとするために、「自分自身を振り返り、新たな自分を作りあげ、世相善導、人心救済のために解脱金剛さまと同行二人の心を持つ覚悟で努力させていただきましょう」と述べた。

恒例の五色うどんの販売はコロナ禍のため中止となったが、温かいコーンスー



プやおしるこが振る舞われてお山は大いに賑わいをみせていた。

解脱錬心館・新年祈願祭

# 日本一の道場を目指して

剣道日本一を目指す解脱錬心館の新年祈願祭が1月9日午前9時30分より、御霊地・太神社殿前にて執り行われ本年の躍進と稽古の安全を一同で祈願した。

当日は、田中宏明館長をはじめ、解脱錬心館指導者、門下生とその保護者らが参列した。田中館長は新年の挨拶で「お

蔭さまで昨年8月に解脱錬心館は創立50周年を迎えました。これまでの歩みに感謝しつつ、日本一の道場を目指して更に努

力精進をして参りましょう」と門下生を激励した。門下生たちは、翌日から14日まで新型コロナ感染防止を徹底しつつ、



寒稽古に励んだ。

なお、本年3月には創立50周年を迎えた記念館内大会が開催される。

## 令和4年 青年初講座・成人式（ブロック初青年会）

# 仲間の節目を祝って喜びを分かち合う



東京ブロック

1月9日、岡野英夫理事長を出講に迎えて、新成人15名を含む約200名が本部道場に集い、開催された。岡野理事長の講話や親のメッセージ動画、新成人代表の親への感謝の手紙など、新成人同士が互いに喜びを分かち合う貴重な成人式となった。



北関東ブロック

1月9日、御霊地道場にて田村和彦常任理事を迎えて挙行された。オンライン参加を含めた参加者全員で新成人を祝した後、御霊地の太神社殿を参加者一同で正式参拝。成人者の健康と今後の活躍を祈った。



神奈川ブロック

1月9日、湘南道場にて開催した。出講の徳田光行道場長は、新成人への祝辞の中で「親先祖へ絶対感謝を」と強調。第2部はコロナ禍で昨年ではできなかったアトラクションが行われ、楽しく盛り上がりお互いの絆を更に強めた。



中部ブロック

1月8日に中部道場で開催、3名の新成人を含む54名が参加した。山本英次道場長の祝辞の後、新成人代表が謝辞を述べた。最後は記念撮影をした後、会場全体で温かい拍手を贈り、新成人の門出を祝した。



関西ブロック

関西道場にて1月9日、青年初講座・成人式を開催し、リモート参加を含む37名が参加、成人者は2名が参加した。

柴田正美道場長より成人者へ「真の幸福を得るには、人様のために働かせていただくこと」との講話があった。アトラクションでは成人者の生まれた2001年にまつわるクイズ大会を行うなど、笑顔にあふれた成人式となった。



西日本ブロック

1月9日に香川多度津支部にて、池松康博理事長を迎え、西日本ブロック成人式・ブロック初青年会を開催。成人式を迎えた喜びを一同で分かち合った。当日は、「家族でお酒を酌み交わしてもらいたい」との思いから、祝い升2つを含む記念品が贈呈された。藤原了理事からは、「両親や家族、地域社会にこれからは恩返しをしていくこと」との激励があった。



北海道

1月9日札幌道場にて、車康平理事を迎え、本年初の青年講座を開催、8名が参加した（内1名はリモート参加）。

新年に伴い、参加者各自が1年の抱負を漢字一文字にして発表し合った。車理事からは「コロナ禍で体験したこと、その中で学んだ知恵を活かして、日々の行を通じ感謝報恩の気持ちで生活していただきたい」と激励があった。

令和4年度 青年幹部研修

# コロナ禍の学びを活かした活動を

青年部長以上の役目をもつ者が研鑽する青年幹部研修が、コロナ禍を鑑みて、2日間の研修を12月11日のみに集約し、岡野英夫理事長、宮坂保徳教務局長を迎えて開催された。今回、北海道～関東までの青年部役員が御霊地・解脱研修センターに、中部～九州までが関西道場に集い、その2拠点をzoom（WEB会議サービス）で繋ぎ、一堂に会して開催した。

午前9時の拝礼行事に始まり、岡野理事長の講話では、「コロナ禍から学びを得

ること」や、「依存から自立すること」等、役員として大切なことを示された。続いて宮坂教務局長より次年度の布教活動方針を分かりやすく説明する講話があった。次に「三聖地の説明とお誘い実践」のディスカッションがグループに分かれて行われ、午後の実践共有タイムでは関西、御霊地と順番に発表を行い、青年本部会での学習を踏まえ、各ブロック議長が学習発表を行った。続き、岡野孝

行青年本部長による「三聖地巡拝錬成に向けて」の講話に学び、それを受けてグループ毎のディスカッションが行われた。次に全議長と各教区部長から順番に金剛さまへのお誓いの決意発表した後、全員で宝号千反を念唱し目標達成を祈願した。最後に岡野理事長の講評を受け、充実した研修は午後5時に終了となった。



zoomで繋いだ関西道場メンバーと一緒に記念撮影

滋賀教区・家族スクール

# 自然の中で楽しく交流

滋賀教区では「元気に挨拶をしよう！」を基本テーマとして掲げ、11月7日に滋賀農業公園ブルーメの丘にて家族スクールを開催した。コロナ禍の影響により1年ぶりの開催となった。当日は秋晴れの気持ち良い天候に恵まれ、各支部

より総勢60名（内子供21名）が参加した。

太田豊地教区長が挨拶を述べた後、芝生広場での交流、子供たちによるキャンドル作り、グループ別でウォークラリー、秋の味覚がいっぱいのバイキングなどを



行った。自然にあふれた環境の中で支部を超えた交流や親子が楽しく触れ合い、青年部及び女性部の協力もあって無事に終了した。

## 3月度研修のお知らせ「青年コース」開催について

次世代を担う解脱青年の育成に向けて、青年コースを開催いたします。

- 開催期間:3月22日(火)～26日(土)
- 開催場所:御霊地・解脱研修センター
- 費用:15,000円
- ※兄弟姉妹で参加の場合、2人目以降の研修費は半額です。
- 定員:25名
- 参加対象:今春高校2年生になる年齢～満25歳
- 締め切り:2月22日(火)
- 申込:参加希望の方は所属支部よりお申し込みください。



●お問い合わせ:解脱会教育部  
TEL:03-3353-3667  
FAX:03-3353-3708  
※詳細は本会ホームページを参照。

## 女性講座 かたばみ会のお知らせ

今年も引き続き、本会常任理事・岩田豊美先生を講師に迎え、立教100年に向けて、改めて金剛さまの女性に向けたご指導に学びます。金剛さまに直接ご指導いただいた女性の先生方からのお勉強を現代に合わせてお話しいたします。

- 日程:3月25日、5月27日、7月26日、8月25日、9月24日(若い女性の集い)、10月26日、11月25日
- 場所:本部道場 ●時間:13時～15時
- ※録画配信も予定しておりますので、ぜひ活用ください。

## 第18回 教区選抜実践作文コンクール結果発表

※最優秀賞3名の作品を4面に掲載しています

- |   |  |  |   |  |
|---|--|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●最優秀賞</li> <li>田村彩珠(立川柴崎)</li> <li>田村彩瑛(立川柴崎)</li> <li>岡野有希(埼玉北本宿)</li> <li>●優秀賞</li> <li>杉浦玲希(阿佐谷北)</li> <li>野瀬心花(江戸川)</li> <li>廣川徳(南新宿)</li> <li>●佳作</li> <li>鈴木大誠(南新宿)</li> <li>清水心菜(滋賀大津)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>中村咲紀子(中野)</li> <li>河野柁菜(兵庫西山崎)</li> <li>岡田健太郎(阿佐谷北)</li> <li>野瀬花帆(江戸川)</li> <li>●努力賞</li> <li>清水咲月(埼玉北本宿)</li> <li>岡田直樹(阿佐谷北)</li> <li>西脇和虹(御徒町)</li> <li>増田紗和(荒川)</li> <li>矢嶋七奈子(雑司ヶ谷)</li> <li>高木菜都美(雑司ヶ谷)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>中島萌依(神奈川大井)</li> <li>須永桜(小田原曾我)</li> <li>鈴木美乃里(南新宿)</li> <li>廣川翔嵐(南新宿)</li> <li>松田拓真(三鷹連雀)</li> <li>杉浦純大(阿佐谷北)</li> <li>仲佐浩美(江戸川北)</li> <li>大久保愛未(荒川)</li> <li>井上大和(川崎新城)</li> <li>中島旺佑(神奈川大井)</li> <li>鈴木大馳(伊東松原)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>宮嶋沙奈(名古屋太閤通)</li> <li>畑野晴美(長浜神前)</li> <li>星野あかり(大阪玉造)</li> <li>柏原咲良(南新宿)</li> <li>大谷匡央(あきる野)</li> <li>原なごみ(多摩)</li> <li>高木颯大(雑司ヶ谷)</li> <li>漆原礼華(荒川)</li> <li>田島裕大(横須賀船越)</li> <li>木村湊(小田原城山)</li> <li>木村匡(小田原城山)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>加藤そら(平塚御殿)</li> <li>須永真男(小田原曾我)</li> <li>宮嶋亜美(名古屋太閤通)</li> <li>北村悠(名古屋千成)</li> <li>鈴木菜月(名古屋大幸)</li> <li>中村祐樹(長浜神前)</li> <li>清水遥貴(滋賀大津)</li> <li>平岩菜々子(兵庫安積)</li> <li>(順不同・敬称略)</li> </ul> |
|---|--|--|---|--|

## 第18回 教区選抜実践作文コンクール最優秀3作品

毎年恒例となった教区選抜実践作文コンクールのテーマは「家族の好きなところ」でした。たくさん作品をご応募いただいた中から選ばれた今回の最優秀賞は、下記の3作品でした。結果発表と各表彰者は3面に掲載されています。

なお、優秀賞から佳作の作品は、本会ホームページの会員専用ページに掲載されていますので、どうぞご覧ください。



### =低学年の部 最優秀賞=

#### いのちのつながり

東京第2教区 立川柴崎支部  
小学1年 田村 彩珠

こんかいのさくぶんコンクールにさくぶんをだすまえに、おうちにある「いのちのまつり」というえほんをよみながらおかあさんといっしょにいろいろなおはなしをしました。

おかあさんからわたしが生まれたときのおはなしをききました。わたしが生まれたときは、とてもさむい1がつのよるで、おとうさんとおかあさんとほかのかぞくも、いまかいまかとまぢおしくて、生まれたときはとてもよるこんでくれたときき、わたしはうれしいきもちとありがとうのきもちでいっぱいでした。

わたしが生まれたのは、おとうさんとおか

あさんがけっこんしたからです。おとうさんとおかあさんにいのちをくれたひとは、4にん。わたしのおじいちゃんとおばあちゃんたちです。おじいちゃんとおばあちゃんたちにいのちをくれたひとは、8にん。わたしのひいおじいちゃんといひいおばあちゃんたちです。だれかひとりがかけると、わたしはうまれていません。だから、いのちやところがきちんとつながってくれて、わたしはありがとうのきもちと、いつもみまもってくれているひとがたくさんいてゆうきがでできます。

わたしは、あさとよるにおまわりをします。「おはようございます。きょうもいちにちががんばります。おまもりください。」「きょうもいちにちありがとうございました。あしたもがんばります。おまもりください。」とげんきにいきます。めにはみえないけれど、このこえがごせんぞさまにきこえているといいな

とおもっています。

わたしは5にんかぞくです。おとうさんのすきなところは、まいにちかいしゃでがんばっておしごとをして、おやすみのひは、いっしょにこうさくをしてくれるところです。おとうさんがげんきにはたらいっているから、わたしはごはんをたべたり、すきなならいごとができてうれしいです。おかあさんは、やさしくておよろいをしてくれます。おねえちゃんは、いっしょにがっこうにいって来てやさしくしてくれます。いもうとは、いっしょにあそんでくれます。

わたしは、かぞくみんなだいすきです。ときどききょうだいでけんかもするけれど、5にんかぞくはたのしいことがいっぱいです。やさしいところとニコニコえがおで、これからもかぞくなかよく、いろいろなことをがんばっていきたいです。

### =中学年の部 最優秀賞=

#### 受けつがれるという事

東京第2教区 立川柴崎支部  
小学4年 田村 彩瑛

私は、ご先祖様や命の事について、家族で話し合い、自分の考えを出してみました。

私の家族で一番年上は、95才のひいおじいちゃん、次に91才のひいおばあちゃんです。私達は、ひ孫なので、「立川のひいじとひいば」とよんでいます。ひいおじいちゃんは、会いに行くといつも神様やご先祖様の事などを教えてくれます。また、ひいおじいちゃんは、「自分はまだ若い。死ぬまで、人間は勉強をやり続けるんだ。」と言って、今でも沢山の本を読んだり、パソコンでお仕事をしたり、自転車に乗るくらい元気です。私も読

書が好きです。ひいおじいちゃんのように、沢山の本を読み、そして、知識にしていきたいです。まだまだ元気なひいおじいちゃんを見てほしいと思っています。ひいおばあちゃんは、思いやりがあり、私達の事を大切に思ってくれ、遊びにくるのを楽しみにしてくれています。ひいおばあちゃんは、おいしいごはんをつくらたり、おみやげを必ずくれます。ひいおばあちゃんのお料理で、ポテトサラダとからあげが私は好きです。ひいおばあちゃんのように自分の事を後にして人のためにおもてなしをするやさしい所を真似したいです。

また、ひいおばあちゃんは、毎年、梅干しやぬかづけ、らっきょうなどもつくっています。今は、おばあちゃんがひいおばあちゃんに教えてもらい、梅干し、ぬかづけ、らっきょうを受けついであっています。それを今、

お母さんが、おばあちゃんに教えてもらい、ぬかづけとらっきょうを作っています。梅干しはもう少ししたらがんばってほしいです。そして、私が大きくなり大人になったら、お母さんから教えてもらい、私の子ども達にどんどんこの梅干し、ぬかづけ、らっきょうを受けついであけるようにしたいです。ひいおばあちゃんは、91才でも毎日家事などもがんばっていてあこがれます。ひいおじいちゃん、ひいおばあちゃん、おばあちゃん、お母さんは、自分の事よりも人のために一生けん命ががんばり、思いやりがあります。私は妹2人と時々ケンカをしていますが、それはおたがいの、自分の思い通りにしたいという気持ちがぶつかり合うからです。これからは、家族に対してひいおばあちゃんのように、思いやりを持てるようになりたいです。

### =高学年の部 最優秀賞=

#### 大切な家族

埼玉教区 埼玉北本宿支部  
小学6年 岡野 有希

私は現在、両親との3人家族です。以前はおじいちゃんとおばあちゃんがいて5人家族でしたが、亡くなってしまったので、今では3人になりました。

私の家は、支部をしているので、会員さんがたくさん来ます。学校から帰ると「お帰るなさい」と会員さんも言ってくれます。近くには親せきが住んでいて解脱会の行事や支部の行事など、お盆やお正月にもみんなが手伝いに来てくれます。そんな中でも私が楽しみにしているのが、親せきが毎年年末に集まって行く、おもちつきです。私はおもちが大好きです。新しい年に神様にお供えする鏡もちや、お正月に家で食べる、のしもちをたくさ

ん作ります。当日は庭にテーブルを出して、青空食堂です。つきたての美味しいおもちをワイワイしながら食べていると、道を通る人が必ずこっちを見て行きます。私はもっと見て、という気もちになります。みんなが準備から後片づけまでしてくれて、その早さと団結力はすごいと思います。親せきにも家族があるけれど、もう一つの大切な家族だと思います。私をかわいがってくれて忙しい家のことや、お母さんを手伝って助けてくれます。

私は家族が好きです。生まれてくる前、お母さんのお腹にいる時から家族です。私はみんながまちに待った待望の子供だったんだよ、と教えてもらいました。そして、家族を選んで生まれてきたんだよ、とお母さんが話してくれました。これから、楽しいこともたくさんあるし、たとえつらいことがあっても必ず乗り越えていけるから、大丈夫だよと

言ってくれました。お母さんは怒るとこわくてめんどうだけど、いつも私を応援してくれるので、力をもらえます。

お父さんは、19才の時に友達の車に乗っていて、交通事故にあいました。そして身体に障害が残ってしまいました。でも周りの人達に助けてもらいながら、一生けん命働いています。3人の家族なのに、好きなことや、見たいテレビ、性格もちがうので、意見が合わなくてピリピリしている時も少なくありません。でも、ご神前でのあいさつと、ご飯の時間は3人がそろろうように、お母さんの号令が毎回聞こえます。今は外食したり、出かけることができないけれど、コロナが落ちたら家族旅行がしたいです。それと岩手のおばあちゃん家に、新幹線で行くのが楽しみです。これからも、家族で助け合って、仲良く暮らしたいです。そしてもう一つの大切な家族も大事にしたいと思います。